



新任教授のあいさつ

琉球大学医学部薬理学教授就任の御挨拶

琉球大学医学部生体制御医科学講座 薬理学分野 教授 筒井 正 人

平成21年6月から琉球大学医学部薬理学を担当させて頂いております筒井正人です。琉球大学医学科同窓会の増田会長から寄稿依頼をいただきましたので、一言ご挨拶をさせていただきます。

私は、昭和38年に東京で生まれ、佐賀県嬉野市で育ちました。高校は青雲高校（長崎県）で、大学は産業医大（福岡県北九州市、昭和63年卒）です。大学の時は軟式テニス部の部長を務め、テニスに明け暮れた日々を送りました（個人戦で全医体2回出場）。大学卒業後は、産業医大第二内科に入局し、最初は循環器内科医として教育・研究・臨床をスタートさせました。

研修医の時は、現在マッチングで人気の麻生飯塚病院 循環器内科（福岡県飯塚市）に勤務しました。当時の麻生飯塚病院 循環器内科には、循環器病センターの立ち上げのために、九州大学 循環器内科からエース級の先生方が派遣されており、そのactivityの高さに研修医の私は大いに刺激を受けました。指導を受けた先生方の中には、現 東北大学 循環器病態学 下川宏明教授や北海道大学 循環器内科 筒井裕之教授がいらっしゃいます。そこで私は、駆け出しの研修医にもかかわらず、それらの先生方に2年間で5報の第一著者の英語論文（臨床研究論文）を書かせて頂くという素晴らしい経験をさせていただきました。

また、臨床面でも、多くの心臓カテーテル治療を経験することが出来ました（通算で心臓カテーテル検査を1,000例、冠動脈インターベンション

[PTCA/Stent留置術]を250例施行)。このような臨床経験を踏まえて、私は現在、臨床に密接に関連した基礎研究を行っています。

世界と勝負が出来る研究が面白く感じられたので、私はその後、産業医大 薬理学の大学院に進学しました（平成3年～平成7年）。そこでは、軟式テニス部の監督であった柳原延章先生にご指導を頂いたのですが、それが縁で、柳原先生が産業医大 薬理学の教授に昇進された際には、私を助教授として招聘して下さいました。

大学院卒業後は、米国ミネソタ州のメイヨークリニック（Katusic研究室）に留学し、一酸化窒素（nitric oxide: NO）合成酵素の遺伝子治療の研究を行いました。私はここで、脳血管外膜へのNO合成酵素の遺伝子治療に成功し、アメリカ心臓学会（AHA）若手研究者賞を受賞することが出来、それがその後の研究のmotivationになりました。

米国留学から帰国後は、門司労災病院 循環器内科 副部長（福岡県北九州市、平成9年～10年）、産業医大 第二内科 助手・学内講師（平成10年～13年）、産業医大 薬理学 助教授（平成13年～21年）を経て、当教室に着任しました。現在は、世界で初めて開発に成功したNO合成酵素系完全欠損マウスを用いて研究を展開しています。

今後、本学の発展に僅かでも寄与出来るよう努力していきたいと思います。同窓会の皆様には、一層のご叱正ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。